

## ⑤ 運転免許と認知症について

近年、高齢運転者の自動車運転死亡事故や高速道路逆走、運転操作ミスなどの交通事故が増加しています。現在の道路交通法は、更新手続きや一定の違反行為(75歳以上)があった時に、認知機能検査が実施されています。もし、あなたの家族(あなたが支えている人)が、運転をしており、「認知症かもしれない」という心配が出てきたら、安全確保やこれからの生活について共に考えることが大切です。運転をやめさせるのではなく、家族や事故に巻き込まれた人のことや、事故の保証が大変になるなどを話してみましょう。認知症と診断された後に、事故を起こした場合は、賠償責任が家族に及ぶ場合もあります。



## ■ 認知症高齢者の自動車運転への対応、考え方

以下の3点は、どれも大事な対応です。すべてを同時に進められれば良いですが、ご本人(運転者)の気持ちや、様々な事情により、難しい場合もあるでしょう。その場合には、まずは、①ご本人の安全の確保を考えるようにしてください。ご本人だけでなく、あなた自身の体調や生活も大切です。一人だけ、家族だけで悩まずに、周りへ相談するようにしてください。

### ①ご本人(運転者)の安全の確保【運転が危険だと感じた場合の相談先】

- 主な相談先**
- ◎安全運転相談ダイヤル(＃8080)  
この番号にかけると発信場所を管轄する都道府県警察の安全運転相談窓口につながります。
  - ◎筑後警察署(0942-52-0110)
  - ◎筑後免許センター(0942-53-5208)など

### ②正確な診断・病気の理解

【不安があれば、できるだけ早く医療機関を受診し、正確な診断を受けましょう】

- 主な相談先**
- ◎認知症疾患医療センター久留米大学病院  
(0942-31-7903)
  - ◎かかりつけ医や大川市内の医療機関(53、54頁参照)など

### ③ご本人にとっての「運転の意味」の理解、代替移動手段や必要な支援の確保

- 家族・友人・知人で、代わりに運転してくれる人をつくる。
- 公共交通機関や移動サービスを利用する。【大川市の場合】

- 主な相談先**
- ◎お住い地区の地域包括支援センター(52頁参照)
  - ◎大川市健康課高齢者支援係(85-5524)
  - ◎担当ケアマネジャー(介護支援専門員)など

★バス、おかわ愛のりバス、タクシー など  
★病院や福祉施設の送迎バス  
★介護タクシーなど



参考：「認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル」国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 <http://www.ncgg.go.jp/cgss/deartment/dgp/>

## ③ 笑顔で生活するための接し方

### 認知症の人への対応の心得 3つの“ない”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない



### ●具体的な対応 7つのポイント

- ① まずは見守る
- ② 余裕をもって対応する
- ③ 声をかける時は1人で
- ④ 後ろから声をかけない
- ⑤ 相手の目線に合わせて
- ⑥ おだやかに、はっきりとした話し方で
- ⑦ 相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応する

参考：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症を学び地域で支えよう」

### こんな時どうする？

認知症の方と一緒に暮らしていくためには、状態に合わせた対応や工夫が大切です。

- 運転中に行先を忘れる。
- 駐車や幅寄せが下手になる。

これからの生活や運転免許証返納について一緒に考えてみましょう。(41頁参照)  
医師や地域包括支援センター、警察などに相談を。



- ご飯を食べた後に「ご飯まだ？」と聞く。

「今つくっているからお茶を飲んでいて下さい」とお茶やお茶菓子を出す。  
説得しないで気持ちの転換を促す。



- 「今、何時？今日は何日？」と何度も同じ質問をする。

デジタル時計や大きなカレンダーなど本人が理解しやすいものを用意する。  
聞かれたらシンプルに「今日は何日です」と答える。  
日付や時間の見当がつく工夫をする。



- 家にいるのに「帰る」と言う。

「送っていきますよ」と言い、一緒に家の回りを歩いて公園で休んだりして帰ってくる。  
無理に止めようとしてないで気分転換を図る。



- 買物の支払いに時間がかかる。
- 料理の段取りが、立てられない。味付けが、むずかしい。

一緒に買い物に行き、支払いを手伝う。  
一緒に料理をしたり、盛り付けなどできることをしてもらおう。  
部分的に手伝う。



参考：板橋区版認知症ケアバスあんしん認知症ガイド